ふるさとのうた

剣淵文化協会俳句部会

綿虫や綿のいのちの短かくて
仲町　玉野研一

そぞろ寒座れば猫の膝に来る
旭町　宝澤房子

紅葉を愛でつつ塩狩峠ゆく
西原町　児玉久美子

霧時雨慟哭秘めしいくさ歌
緑町　池田良子

干したての布団に眠る星月夜
西岡町　渋谷みさ子

枯れすすむわが人生も残菊も
南桜町　宮腰幸子

廃校の石碑なぞりて草紅葉
西町　金澤頼子

錦なる山より届く初冠雪
元町　印牧安子

嵐中狭間（はざま）の小春日和かな
緑町　齋藤嘉子

恙がなく日日の暮しや初紅葉
仲町　坂部和子

ポケットに遊ぶ団栗指の先
元町　西崎弘子

台風禍ブラックアウトの怖さかな
屯田町　古屋克江

珈琲のかおり纏いて秋惜む
仲町　梅基文子

菊咲くや宅配便の荷札書く
旭町　大河博子

星あかり一人じめして秋惜む
西町　岸波君江

この先は獣道かな暮の秋
西町　杉浦とし枝

迷い猫いずこに居るや秋冷ゆる
藤本町　鈴木ゆき子

腰ひくく野良猫あゆむ葡萄棚
東町　高草木喜代子

ひと寝して明日の米とぐ星月夜
西岡町　高瀬久美子

新米の銘柄並ぶどっしりと
東町　高橋世津子

秋惜しむ七輪で焼く魚の味
西町　文梨清子

夜更かしの机辺に溜るしばれかな
仲町　芳賀星子